

道徳科学習指導案

指導者 瀬戸 陽子

- 1 日 時 平成29年12月1日(金) 3校時 (10:30~11:15)
- 2 学年・組 第3学年月組 27名
- 3 主 題 名 相手を思いやって親切にする <内容項目 親切・思いやり B(6)>
- 4 教 材 名 心と心のあく手 (わたしたちの道徳)
- 5 ね ら い おばあさんの後をそっとついて行き見守る選択をした「ぼく」の気持ちを考えることを通して、相手の立場になって人を思いやり、親切にしようとする道徳的心情を育てる。

6 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

望ましい人間関係を構築するには、お互いが相手に対して思いやりの心をもって接することが不可欠である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を推し量り、自分の思いを相手に向けることである。そのためには、相手の存在を受け入れ、相手のよさを見いだそうとする姿勢が求められる。特に学校生活においては、学校の人々や友達など様々な人と直接的に多様な関わり合いをもち、その上で、相手の立場を考えたり、相手の気持ちを思いやったりすることを通して、思いやりや親切な行為の意義を実感できる機会をつくっていくことが重要である。

中学年においては、様々な人々との関わりが次第に増えていく中で、相手の気持ちを察したり、相手の気持ちをより深く理解したりすることができるようになる。一方、ともすると他の人々の考え方や感じ方が自分たちの考え方や感じ方と同様であると思いがちになることもある。

そこで、「親切にしたい」という気持ちを大切にしながらも、相手の置かれている状況や困っていること、大変な思いをしていること、悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして受け止めることの大切さに気付かせたい。自分本位の親切にならないよう、相手の立場や気持ちに心を寄せながら、自分がどのように接し対処していくことが相手のためになるのかをよく考えさせ、言動へとつなげていけるようにしたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、友達に優しくしたり、友達を手伝ってあげたりできる児童が多い。しかし、友達が困っていても気付かなかったり、気付いていても行動に表せなかったりする児童もいる。また、「手伝ってあげたい」という気持ちばかりが先行し、相手の状況に応じて対応するということができないこともある。仲のいい友達には進んで親切にするが、そうでない相手やあまり知らない他の学年の子に対しては、見て見ぬふりをしたりすることもある。

そこで、本教材での学習を通して、相手の立場や気持ちを考えることの大切さについて考えさせたい。おばあさんのことを考えてじっと見守る主人公の姿を通して、どのように接することが相手のためになるのかをよく考えて、それを行動に移す気持ちをもてるようにしたい。また、親切な行為をしたときに、自分と相手の心が通じ合う喜びに触れ、思いやりの心を行動に移すことで、自分もみんなもすがすがしい気持ちになれるということにも気付かせたい。

(3) 教材について

本教材は、おばあさんの状況を考えながら見守る「ぼく」の思いに共感させることで、本当の親切について考えさせる教材である。

「ぼく」は、大きな荷物を持ったおばあさんに会い、「荷物、持ちます。」と声を掛けるが断られる。母から、そのおばあさんは歩く練習をしているということを聞いた後、またそのおばあさんに会い、次は迷いながらもそっと見守り、後ろをついて行く。家にたどり着いたおばあさんの笑顔を見て、「心と心のあく手」をしたような気がするという内容である。

おばあさんに声を掛けるかどうか迷う「ぼく」の気持ちに共感させながら、見守るという選択をした「ぼく」の心情を考えさせたい。そして、相手の置かれている状況を想像することによって、相手にとって何が一番よいかを考えてから行動する大切さに気付かせたい。

7 考えを深め合う授業の工夫

- ・児童の発言に対して切り返しの発問をしたり、補助発問を入れたりすることで、より深く考えさせるようにする。
- ・道徳ノートを活用することで、主人公の気持ちを深く考えさせたり、本時の学習での気づきや思いを振り返らせたりする。
- ・ペアトークを取り入れることによって、自分の考えと友達の考えの同じところや違うところに気づき、より深く考えられるようにする。

8 本時の展開

過程	学習活動	学習形態	主な発問と予想される児童の反応	教師の働きかけ	準備物・評価
導入	・「親切」について考える。	一斉	「親切」とは、どんなことですか。 - 鉛筆が落ちているのを拾ってあげる。 - お年寄りに電車の席を譲ってあげる。	・身近な親切について、してもらったことやしてあげたことを振り返らせ、価値への方 向付けをする。	
展 開	・教材を読む。	一斉	初めておばあさんを見たとき、ぼくは どんなことを考えたでしょうか。 - 大変そうだし、手伝ってあげたいな。 - 心配だな。大丈夫かな。 - 手伝ってあげたいけど、断られたら恥 ずかしいな。 - 思い切って声をかけてみよう。 2度目におばあさんを見かけたとき、ぼくはどんなことを考えたで しょうか。 - どうせ断られるから、お母さんの約束 を優先させようかな。 - おばあさんは練習をしているのだから 断るだろうけど、心配だな。 - 心配だし、何か出来ることはないかな。 - やっぱり無事に着くかどうか心配だから、 ついて行こう。 - もし途中で何かあったら、すぐに助け られるようにしよう。 「親切」をしようとするときに大事 なことは何でしょう。 - 思いやり。 - 相手の事を考えること。 - 相手の気持ちを一生懸命想像してみ て、どうしたらいいか考えてみる。 - 相手がどうしてほしいかを考えて、相 手がしてほしいことをする。 - 相手がしてほしいときには、見守 る親切もある。	- おばあさんを助け たいと思ったぼ くの素直な気持 ちに気付かせる。 - 迷うが声をかけた 勇気にも触れる。 ●おばあさんを出 むかえたむすめ さんは、どんな気 持ちだったでし ょうか。 - むすめさんと同じ 思いでいたぼく の気持ちに目を 向けさせる。 - 親切をしたとき に、自分も清々し い気持ちになる ことをおさえる。 ●最初のぼくの「親 切」と今の「親切」 とで、違うところ はどこでしょう。 - 親切には、相手の 気持ちや状況を 推し量ることも 大切であること に気付かせる。	- 挿絵等 - 発問カード ※おばあさんの立 場になって考え て行動した「ぼ く」の気持ちに 気付くことがで きたか。 ＜道徳ノート＞
	・おばあさんに出会ったときの気持ちを考える。	一斉			
	・おばあさんを見守ってついていく決断をした「ぼく」の気持ちを考える。	個別 ペア 一斉			
終 末	・「親切」について考える。	一斉	今日の勉強で分かったことやこれか らしていきたいことを道徳ノートに 書きましょう。	振り返りを交流す ることで、実践し ていこうとする 気持ちを共有す る。	※相手の立場にな って人を思いや り、親切にしよう とする気持ち を持つことがで きたか。 ＜道徳ノート＞
	・振り返りを書き、交流する。	個別 一斉			

9 板書計画

親切とは

心と心のあく手

さし絵

さし絵

二度目におばあさんを見かけた時、ぼくはどんなことを考えたでしょうか。

二度目におばあさんを見かけた時、ぼくはどんなことを考えたでしょうか。

おばあさんにことわられる

歩く練習をしている

「親切」に大事こと

10 道徳ノート

道とくノート

第二十五回 『心と心のあく手』

名前)

十二月一日

考えメモ

二度目におばあさんを見かけたとき、ぼくはどんなことを考えていたでしょうか。

ふりかえり

考えたことや友だちの意見を聞いて感じたことを書きましょう。

◎しっかり考えることができた。

◎考えが深まった（新しい発見があった）。

◎今日学んだことをこれからの生活に生かしていきたい。

4・3・2・1

4・3・2・1

4・3・2・1